



第32号 2023.7.10 発行者: 学校法人 城西医療学園

Taiju no Ishizue

OPEN MEDICAL
— 生きる力を。—
NIMS
NIIHON INSTITUTE OF MEDICAL SCIENCE
日本医療科学大学

令和4年度 学位記授与式

令和4年度学位記授与式が3月10日、川越プリンスホテルで執り行われ、卒業生3009名の新たな門出を祝いました。

卒業生と一部の関係者での挙行となりましたが、式の様子は大学YouTubeチャンネルで、卒業生関係者限定でライブ配信しました。

式辞の中で、新藤博明学長は「生命や健康といった人の根源に接する医療人には倫理観、接遇、態度など知識や技術以外にも多くを求められます。生涯、考え努力して最良の医療人を目指してください」と激励しました。

卒業生謝辞では、診療放射線学科の片桐大輔さんが、実習で成長した経験や先生方の厚い指導を振り返り「本学の卒業生としての誇りと責任感を持って業務に励むことを約束します」と誓いを述べました。

令和4年度卒業生表彰者

- 診療放射線学科**
学長賞 埼玉県診療放射線技師会 会長賞
埼玉県診療放射線技師会 奨励賞
日本放射線技術学会 関東支部
養成校学部卒業生優秀賞
- 理学療法学科**
学長賞 日本理学療法士協会 学業優秀賞
全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
- 作業療法学科**
学長賞 日本作業療法士協会 優秀学生賞
全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
- 看護学科**
学長賞 埼玉県看護協会 会長賞
日本私立看護系大学協会 会長賞
- 臨床工学科**
学長賞 埼玉県臨床工学科士会 理事長賞
日本臨床工学科士会 理事長奨励賞
日本臨床工学科士教育施設協議会 代表理事賞

- 大輔太也 片桐大輔
- 智 増田
- 拓己 渡辺
- 幹太也 尾崎
- 里 松下
- 櫻 新井
- 拓 宮下
- 結 服部
- 佳 山崎
- 千 森田
- 聡 富永
- 海斗 桑
- めぐみ 仲田
- 葉月 井上



授与式後、卒業パーティーが行われました 学位記授与。卒業おめでとうございます 開催日: 2023年3月10日 会場: 川越プリンスホテル

令和5年度 入学式

令和5年度入学式が4月3日、川越プリンスホテルで挙行され、425名の新入生が期待を胸に医療人を目指すスタートラインに立ちました。

新入生と来賓、役員、一部の教職員での挙行となりましたが、保護者向けには大学YouTubeチャンネルでライブ配信しました。

新藤博明学長は式辞の中で、「医療系国家資格の取得は容易ではありません。本学の高い合格率は地道な学修によつて達成されるもの。教職員は全力でサポートします。人と出会い、様々な経験を人間として成長してください。医療人として糧になります」と期待を述べました。

新入生代表として学生宣誓に立つ

2023 Entrance Ceremony



開催日: 2023年4月3日 会場: 川越プリンスホテル



ご入学おめでとうございます 学生代表宣誓。「仲間と手を携えて精進します」と決意を述べました

特別 医療人として「人間性」を高める 対談 勉学との両立。家庭と両輪で

これから期待される医療人 人間性を磨く経験を

学長 本学は開学以来、高い水準で国家試験合格率を保っています。昨年度は4つの職種の国家試験で合格率100%を達成しました。一方、医療・福祉分野では深刻な担い手不足で、国は「多様な人材の参入促進」なども視野に入れています。

このような変化を見越して、医療人には、より高い人間性や人としての厚みなどが求められると考

えています。命に携わる者として、人の痛みや苦しみを理解できる人間性を育てる事が重要です。

本学では、海外研修プログラムなどの海外経験、ボランティアやイベント、サークル活動などを通して人として成長し、バランスのとれた医療人を育てたいと考えています。学生にはこれらの活動に積極的に参加して人間性を磨いてほしいと思います。

副学長 国家試験合格の道は険しいものですが、大学が勉強するだけの場になってしまつては息切れをしたり、何よりも人として偏つてしまふと思います。

大切なのは両立することです。国家試験合格は、医療人としてスタートラインに立つということに重要な意味があります。ただ、現場で活躍するため、必要とされる力は人間性です。これからの時代はなおさらでしょう。

国家試験合格を目指すのはもちろん、同時に人間性を高めたい

新藤 博明 学長 × 中谷 儀二郎 副学長

と考えています。そのためには、これまでと同様に大学と家庭が両輪になって学生を支える必要があります。保護者の皆様には、ご理解とご協力をお願いします。

組織をさらに活性化させる データ分析を運営に生かす

学長 保護者の皆様からの期待が高まる中で、国家試験の合格率と人間性を高める為には、これまで以上に教職員の力が必要となり、専門学校時代から尽力してもらっている中谷先生に今年度より副学長に就任していただきました。

中谷副学長は、本学開学に当たつて、その最前線に立たれ、本学をここまでけん引してきた実績があります。

副学長 本学は教職員が同じ目標へ向かいながら、多様な考え方をもち合わせています。それにより、組織としてより良い道筋を進む力があると感じています。

これまでの学部長から副学長として学長を補佐する立場になり、責任の重さを感じています。組織の力を十分に生かし、さらに活性化していきたいと思っています。

また、今年度は学部長を含め、4人が新しい長に就任しました。それぞれが新しい色を出し、変化につなげて全体としてより良い道筋を進んでいきたいと考えています。

学修成果や財務情報といったデータを活用する「IR」に関して、本学は今後、強化していく予定です。データを活用することで、現状を把握し、どのような課題があるのかを認識し、教育の質の改善につなげていきたいと考えています。

学長 本学独自の取り組みもあり、教職員が学生「一人」を理解しているのが本学の良さであり、強みでもあります。学位記授与式では教職員と学生が「おめでとう」「ありがとうございます」と笑顔で言葉を交わし、大学生活を振り返る姿があります。医療現場での「チーム医療」につながる、大学「環」で学生を育てる「チーム大学」の精神を根づかせる事でこれからの時代に活躍できる医療人を育てたいと思っています。

国家試験の傾向と対策について 学科・専攻長からのメッセージ

診療放射線学科 学科長 桑山 潤

令和4年度の国家試験は、過去に出題された内容が多く、平成元年以降2番目に高い合格率(全国平均87%)となりました。

次年度、国家試験出題基準が変更になることから、今後の国家試験は傾向が大きく変わると考えられます。大学での対策講義を軸として基礎学力を積み上げましょう。

変革のときですので、ご家庭の支えが重要です。健康面と精神面のサポートを今まで以上にお願ひ申し上げます。

リハビリテーション学科
理学療法専攻 専攻長 工藤 昌弘

令和4年度理学療法士国家試験は、過去に出題された問題に修正や変更を加えたものが多く出題される傾向にあり、全国の合格率も近年では高いものでした。

保護者の皆様には、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

臨床工学科 学科長 中尾 教伸

令和4年度臨床工学技士国家試験は、例年通り基本的な知識を問う出題が多くみられました。ただ、令和3年度からの出題基準で増えた範囲からの新しい項目の出題や、臨床現場での知識・思考過程を問う出題も多く、受験者にとっては難しく感じられる試験でした。

国家試験の対策としては、まずは国家試験過去問10年分程度を分野別・項目別に解いて傾向を掴み、基本的な知識を確実にしていきます。

このとき、用語だけの暗記に留まらず、関連する知識も含めて理解し覚えるのがよいです。また、学んだ内容をアウトプットしてチェックすることも知識の定着のために重要で、一度解いた問題を自分で説明できるように繰り返し解き直し、復習することも効果的です。

なお学科では、授業や学内模試を通して、実践的な応用力や新しい傾向の問題にも対応できるように進めていきますので、粘り強く取り組んでいきましょう。

教員一同丸となって指導してまいりますので、保護者の皆様におかれましても、

令和5年度の国家試験より出題基準が改訂され、その内容に準じた対策を講じる必要があります。具体的には、職場倫理・職場管理・教育・社会保険制度について、4学年の実習前に関連科目の修得を行っております。

国家試験の受験までは、とても大きなストレスを抱えることと思います。根気強く勉強を続けていくには、基本的な生活習慣の確立や、休み癖の予防など、保護者の皆様にもご支援いただけますようお願い申し上げます。

リハビリテーション学科長 兼
作業療法専攻 専攻長 本田 豊

令和4年度の作業療法士国家試験では、近年の傾向通り、幅広い疾患の知識と作業療法の評価・治療を関連付けられる理解が求められています。

分野別では昨年に比べ、整形外科系の出題がやや減り、代わりに運動学の知識を問う出題が増えました。過去10年の問題を俯瞰すれば、類似した出題が多

臨床検査学科 学科長 伊藤 昭三

本学科は2025年2月に初めての受験を迎えますが、今回の臨床検査技師国家試験(第69回)の全国合格率(新卒)は89.5%で、過去10年平均89.3%より若干高い成績でした。

国家試験に対して過去問題の分析、重要ポイントの押さえ、受験技術の修得も大事ですが、1~4年までの普段の専門基礎科目、専門科目の授業をしっかり受講し、テキストを最初から最後までまなく精読するのが時間対効果を最も高くあげると思われます。

特に3年生後期の臨地実習(病院実習)に向けて、知識の整理や技術の確認をすることを目の目標にすることが、4年生の国家試験合格へ繋がります。

また昨年度から1~2年生に対し、臨床検査技師国家試験の過去問題を解かせて、全員に模擬試験を受験させ、平日頃から国家試験問題のレベルを認識できるように仕組んでいます。

医療系大学の授業は、通常の理系大学、文系大学と異なり、国家試験受験資格に必要な必修科目の講義・実習が

く、難易度は標準的です。

したがって、過去10年間に出版された問題を分析し、解答に結び付く専門知識を教科書や専門書で理解し、その知識が「他者に教えられる」レベルになることを目指しましょう。

また、近年の傾向として、多くの情報に含まれる長い問題文の意味を理解できる読解力の重要性が増しています。

作業療法の実地問題では、臨床技能や臨床思考能力が問われ、臨床実習での経験を改めて国試用の知識に置き換える学習が有効です。

保護者の皆様には、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

看護学科 学科長 真野 響子

新出題基準になって初めての国家試験でした。看護師の対応(臨床判断)を問う問題が増加し、過去に出題された問題でもより詳しい内容を問う出題に変化しています。

保健師国家試験では、時代の要請を踏まえた出題が増加しています。このため、専門基礎科目の確実な知識の修得と、問題集は解説を読み解くだけではなく、関連する内容(出題基準の小項目)までを学習することが必要となります。

多くあります。普段から睡眠、食事などの生活リズムを整え、効果的に勉強をすることを勧めます。

なお学科では担任制を設けており、何かご相談事がある場合はいつでも対応いたしますのでご連絡ください。今後とも学生へのご家庭からの温かなサポートをよろしくお願ひ致します。



医療・基礎教育科
准教授
田丸 文信



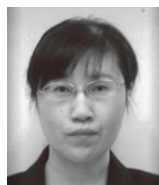
臨床検査学科
教授
野寺 誠



臨床工学科
助教
和田 あゆみ



看護学科
講師
黒澤 多美子



看護学科
講師
小此木 百合香



理学療法専攻
助教
姚 潤宏



理学療法専攻
助教
峯岸 雄基

新任教員の紹介

新学部長からのメッセージ

保健医療学部 伊藤 芳保 学部長

昨年度の本学の現役国家試験合格率は、診療放射線学科・臨床工学科・看護学科保健師課程及び作業療法専攻で100%となり、また、他の学科専攻でも90%を超える高い結果を出すことが出来ました。頑張ってきた卒業生及びご指導頂きました先生方に厚く御礼申し上げます。

本学は、医療系国家試験資格取得に特化した大学です。医療現場では、患者様のために、様々な専門職がチームとなって治療を行っています。本学も

一丸となって国家試験合格を目指しています。

国家試験は、4年間の学修の集大成です。普段の規則正しい生活が重要で、日々の勉学を続けることで、必ず報われる時がやってくると思います。

勉強の効果がなかなか表れず、辛くなり、勉強から逃避したくなることもあるかもしれませんが、その時は決して一人で抱え込まず、教職員に相談してください。保護者の皆様におかれましても、ご協力、ご支援を宜しくお願い致します。